

中央アルプス主脈に突き上げる明るい谷

中央アルプス 大田切川本谷

明るく、フリクションが効き、水と戯れられる、快適な沢がいい、という私のわがまま性能発注。梅雨明け直前で場所選びが難しいなか、田邊さんがチョイスしてくれたのは中央アルプスだった。本谷とつく沢である。しかし、田邊さんがこれまで行ってなかったのは、あまり滝がなさそうだからとのこと。

7月23日（土）：曇り後晴れ

目が覚めると菅平の駐車場は満車になっていた。前日までの雨は上がっている。駒ヶ岳ロープウェイ往きのバスはほぼ満席である。途中の檜尾橋での下車は私たちしかいない、と思いきや、若い4人組がバス停に待っていて、入れ違いになる。ヘルメットなどを持って沢屋カクライマーといった姿。どうしてこんな時間にこんなところから？

疑問未解消のまま取水口へのトラバース道を歩く。電源開発の苦勞を感じさせる道。そこで作業をしていた人がさっきの？の答えをくれた。かの4人組は、私たちと同じ本谷に行ったが、水が多く、渡渉できずに引き返してきたという。えっ、そんなに増水してんの？

二つの吊橋を渡って取水堰に到着し入渓。やはり増水気味のように、水量は本谷の名にふさわしい。遡行開始してすぐ、腹まで浸かる場所が現れた。たぶん平水なら屁でもないところだろう。しかし、まともに中央突破しようとしたが水圧に負け、いったん引き返す。早くも気持ちが萎えそう……。田邊さんから流芯と水底の様子をとらえたアドバイスを受け、もう一度行ってみたら、あら不思議、子どものオナラぐらいだった。読めてるものが違うのですね。

感心している間もなく大岩が出現。昨年遡行したパーティーでは、大岩の左のチムニーのようなクラックのようなのをハギーがショルダーを使って登っているが、下部に足場がなくてハングするので難しそう。今日はそこに水が流れているので取り付かず。目先を変えて、左岸の水平クラックを使って水際をトラバース。水に浸からずに突破できた。回り込んで大岩の上から荷揚げし、フォローはお助け紐でゴボウした。

初っ端からなかなかの手応えである。水と戯れるどころか、水と格闘する大変な沢に来てしまったのかもしれない。流芯をかわして岩から岩へジャンプしたりしながら進む。次は何が待ち受けているやら……。

しかし、そんな期待と不安を裏切って、あとは大味な感じの川原歩きに終始した。左右からの支流は大きな滝で注いでくるが、本流にはこれといって滝が出てこない。沢は開けていて、ゴルジュもない。何もないからどんどん進む。13時に標高1850付近で初日の行動を終えた。

【日程】

2016年7月23日（土）
～7月24日（日）

【メンバー】

田邊（L）、森山

【グレード】

2級

【地形図】

空木岳

【記】森山



ジャンプする田邊さん

7月24日(日) : 晴

今日は朝からいいお天気である。単調な川原歩き。前方には川原が一直線に突き上げるのが見えている。屈曲の少ない沢はあまり滝が出てこないというのが、よく当てはまる。高度をどんどん上げる。早目に伏流となり、浮石が崩れやすい。10時頃に小屋のある木曾殿越に到着。



人懐こいオコジョに会った

ガスに見え隠れする山頂までは、標高が高いので空気が薄いこともあって遠く感じた。4時間の下りも含め、最後は体力勝負のルートだった。翌日からはいつになく筋肉痛になってしまった。

私のリクエストどおり、明るく開けていた。花崗岩でフリクションが効いた。快適と言えば快適な沢だった。けど、もう少し厳しさがあっても良かったなあ、というのが正直なところ。田邊さん曰く、沢で快適さと厳しさは両立しない。概してそうなのかもしれない。

【行程】

7/23 菅平 (8:20) ~ 檜尾橋 (8:30) ~ 取水口 (9:10) ~ 標高 1850m 付近 (13:04)

7/24 C1 (7:25) ~ 木曾殿越 (9:50) ~ 空木岳山頂 (11:35) ~ 菅平 (15:45)

2016.7.23~24
由良アルファ 大田川本谷

